

第3回酒田市総合計画審議会民生部会会議録

日 時 平成18年10月11日(水)午後1時30分～午後3時15分

会 場 酒田市役所 議会会議室

出席者

・ 部会長

佐藤 吉雄

・ 委員

檜山 實 池田 幸雄 日下部仁司 武田 恵子 富田ユリ子

齋藤 義明 小松 隆二

・ 欠席委員

本間 清和 大井よ志子

・ 事務局職員

松本 恭博 池田 辰雄 佐藤 幸一 佐藤 俊男

阿部 雅治 小松 寛 成澤 実 佐藤 伸 加藤 哲夫

和島 繁輝 相蘇 清太郎 阿蘇 輝雄 後藤 登喜男 小松 秀司

杉原 久 阿部 勉 菊池 裕基 池田 恒弥 大谷 謙治

前田 茂男 小林 瞳

協議日程

部会長あいさつ

1 開 会

2 報 告

(1) 総合計画まちづくり意見交換会について

(2) 総合計画まちづくり50人会について

3 協 議

(1) 酒田市の現状と課題 (案) について

(2) 民生部会重点項目について

4 その他

5 閉 会

部会長あいさつ ・ 1 . 開 会

事務局 (杉原久) 本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

それでは部会長より開会をお願いします。

会長 (佐藤吉雄) 大変ご苦労様でございます。ただいまより第 3 回の民生部会を開会いたします。

前回までに協議いたしました事項に加えて、本日議題として上げられているもの、取りまとめされた意見等のご説明等も賜りながら、部会としてもまとめていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

本日の部会の構成ですが、本間医師会長さんと、大井婦人部会長さんが欠席されておりますが、この部会は成立しておりますので報告します。

2 . 報 告

会長 (佐藤吉雄) それでは、次第に添いまして報告に入ります。総合計画まちづくり意見交換会と総合計画まちづくり 5 0 人会について、取りまとめたものにつきまして説明をお願いします。

事務局 (阿部雅治) 説明をしたいと思いますが、その前に、前回に北庄内圏域の病院とか介護施設とか体系的に見れる資料が欲しいとの要求がありましたので、お付けしておりますので、後でご参照いただきたいと思います。

資料の1. 総合計画審議会について、前回の部会について書いてあります。これは皆さんで論議したものでありますので、説明は省略させていただきます。2. 総合計画まちづくり意見交換会ですが、9月13日、飛島を皮切りに、中学校区単位に全市を回り、15回で延べ326名の参加をいただいております。また、総合計画まちづくり意見交換会と総合計画まちづくり50人会の意見の聞き方が少し違っていますので、紹介したいと思います。総合計画まちづくり意見交換会は、私どもが地域に出向いて意見をいただいたもので、以前にお配りした「酒田市の現状と課題」を見ていただく時間がなく、私が概要をその場で説明し、ザックバランに市民の方が日ごろから思っていること、或いは酒田市に将来についてこうしたいと考えていることなどを意見をいただきました。総合計画まちづくり50人会は、構成にも書いてありますが、一般公募34名、団体推薦24名、当初50人で構成したいと思っておりましたが、一般公募が若干多くあり、全員より参加していただいた格好で58人の構成になっています。年齢構成も、高校生からね70歳代まで、女性も13人入っており、ある程度年齢や男女別も振り分けになったようです。8月9日より3回に別けて意見交換を行いました。58名ということもあり、4班に分かれて約15名位ずつ意見をいただきました。メンバーも決まっておりますので、この酒田市の現状と課題を事前に読んでいただいた上で意見をもらっておりますので、総合計画まちづくり意見交換会とは意見の出方が若干違っています。

次にどういう意見が出たかという類型ですが、市民の方々が重要と思っている項目、そういうものがここに出るのかなと思っておりましたが、先ほど申し上げましたとおり、まちづくり意見交換会とまちづくり50人会、意見の聞き方が違ったということで、ベスト10だけを見ても違いがあります。まちづくり意見交換会は普段考えていることで聞きましたので、こちらの方がベスト10に入るのかと思いますが一概には言えないということで、普段とつきやすい市民の生活に関係するような身近な課題が多いのかなと思っています。順位は目安ということで考えておりますが、例えば両方ともベスト10に入っているのは、観光振興、都市整備、学校教育がベスト10に入っています。そういう形で見ているが産業振興の面から見ると雇用とか林業の振興についても、かなり順位の方に入っているということになっています。意見を見ないと重要度がわからないと思いますので、意見のシートをご覧くださいと思います。前回の部会のシートとまちづくり意見交換会の意見概要とまちづくり50人会の意見概要と3冊あります。

資料説明。 - 省略 -

3 . 協 議

会長（佐藤吉雄） それでは、計画の中でも論議の中でも現状と課題についてでも言われたことですが、何か足りないもの、ここは、こう訂正する必要があるとか、まちづくり意見交換会や50人会で出てきたものを、どう解するかもあります。皆さんより意見があれば伺いたいと思います。これだけ資料が多くあると、委員の皆さんも大変だと思いますが、何かありませんか。病院の統合問題は議論されていると思いますが、どのようは方向性に進むのかは先が見えていないませんが、最近の状況で教えていただける部分はありませんか。

企画調整部長（松本恭博） マスコミ等でも報道されておりますが、9月13日に知事と市長が協議いたしまして、県立日本海病院と市立酒田病院を統合再編するという大きな方針が決まりました。これを受けて、県、市それぞれのメンバーを出し合いながら、協議会を立ち上げて、経営の方針や病床数、それに伴う施設等をどうするかについて、これから議論していくというのが現在の状況です。この協議会を運営していくために事務局を作るとして、先般、内示という形で報道にも出た訳ですが、県から5名、市から2名、専任の事務局体制を作って、県庁の健康福祉部の中にある病院局に、北庄内の医療整備推進室として、この協議会を運営するための事務局体制を作るところまで現時点では拡張しているところです。予定では、来週16日には正式に発表することになっております。今月中には何らかの形で、協議会メンバーが一堂に会する場面もでてくると考えております。

そもそも、この問題が何故起きてきたかということ、お話する場面が少ないので、皆さんからは分かりにくいということがあるかも知れませんが、2つの理由があります。1つは、医療制度が、この1～2年で大きく変わってきております。昨年3月に市立病院の改築ということでマスタープランを作った訳ですが、それですら今の国の動きにマッチングしない部分が発生しております。一番大きいのは、いわゆる療養病床で慢性期の比較的様態が安定していて、少し回復には時間がかかるような方ですが、今年の5月より医療系については将来0にしようということが分かりました。そうするとこの地域のベッド数の数え方が変わってきます。従前ですと庄内2次医療圏で完結していた医療が160床不足しているとおったので、単独で酒田病院を改築しようということになったのですが、ところが国の方針を受けて2年後2008年の4月から新しく動き出す地域保健医療保険計画の計算でいくと、100床が過剰となってきます。その環境の中で市立酒田病院が建替えするとすれば、現在の

400床ではなくて、250～300床位の病院でしか建てられないという課題が出てきます。今400床の病院で、黒字経営で累積赤字も0にしました。そういう意味では財務状況がよしいのですが、250～300床位の総合病院は経営が非常に厳しい、黒字経営は困難であることが見込まれます。一方で、県立日本海病院は100億を超えて赤字になっている状況ですが、これから先、東北・北海道は医師不足が顕著になっている。従来であれば、大学の医学部に医局という形で、各病院に派遣する仕組みができていました。2年前より、新卒の医師の研修制度が変わり、医局に残らないで全国どこにでも行くことができるようになったのですが、特に若い医師は症例が多い、指導者が揃っているところに行く、大都市周辺や特化した病院に集中しています。山形も含め、東北、北海道は、非常に医師が不足しています。これがベッド数から計算する医師数が一定率から欠けているとなると、同じ診療をしても、標欠病院として一律3割削減となり、ますます経営的に容易ではなくなります。この北庄内地域で、医療供給体制を確立をすれば、市民、地域の皆さんに十分答えられるシステムになるかを模索して、市では外部委員会、県では監査法人等々に経営診断を仰ぎました。その結果、市立病院と県立病院とが統合再編すべきだと、両方から同じような見解が出されました。今現在は、財政的には市の単独でもバランス良く経営が成り立っていますが、10年20年先を考えた時は、両方とも医師不足、経営困難ということで、赤字体質から脱却しきれません。そうすると県税、市税の負担となります。そうしたことを改善するには、統合して、1つの地域医療ということをして、保健、福祉も絡めながら確立した方が良くだろうという観点から、現在に至っています。以上がこの問題の発端であります。まだ、具体的に協議会が立ち上がった訳ではありませんので、これから細部を詰めて参りますが、なにぶん市立病院の西棟は昭和44年に建設され38年になっています。建物の耐用年数も40年と言われておりますので、ぎりぎりのところで、そんなに長い時間は置けません。できるだけ速やかに新しい体制を作っていく必要があります、今、準備をしている状況です。

会長（佐藤吉雄） 何か質問等がありますか。病院の統合問題については、大きな問題でありますから、情勢もこれから変化すると思しますので、ここで議論してもどうかなという部分もありますが、一定のところまでは総合計画の中でも捉えておく必要があります。部会でもいろいろな問題がありますが、何か足りないことや落ちていることはありませんか。

委員（武田恵子） 環境保全との絡みで、庄内砂丘にある松林は、人工林ですが、日本でも有数の貴重な松林、防災林だと思います。ちょっと保護を間違えると、秋田の海岸林のようになってしまいます。松食い虫対策にもっと力を入れないと大変なことにならないで

しょうか。長いこと手間暇かけて松林を作ってきて、ある程度成長した松を切り、畑にしたり住宅地にしたりしている訳ですが、これ以上傷めてしまうと再生不能となり、膨大な費用がかかるのではないかと考えられます。砂が飛ばないことで酒田市民は生かされているので、もう少し費用をかけ、手間をかける配慮の言葉がどこかにあっても良いと思います。

企画調整課長（阿部雅治） 森林対策は、産業部会でも検討されておりまして、ボランティアでもやっておりますし、酒田市は他市よりも状況は良いと思っています。行政とボランティアが連携しながら森林対策をしていくような体制でいきたいと考えています。また、旧3町の山の森林もあり、全体的な課題もありますので、これまで以上に対策が必要と考えています。

会長（佐藤吉雄） 林業のことは産業部会で集中的に議論した方が良いと思いますが、いかがでしょうか。もし必要があれば、産業部会で整理をする際に、当局で配慮いただければと思います。

委員（小松隆二） 基本的には、今言ったとおりで良いと思いますが、目先の問題と将来の問題を考えると、意外に部会を越え、連携した議論も必要ではないかと思っています。民生部会としては、健康や福祉、或いは目先の病院などの問題に目が行き易いわけですが、他から見るともっと重要なこと、酒田の将来の民生部門の目標はどうなんだと問われてしまうかもしれません。建設部会では、もしかすると旧来の箱物的な、住宅、景観、道路しか見えなくなる可能性もあります。市民の暮らしについては、民生部会から見た方が良い問題もあります。目先をどうするのかということや、将来、子どもたちが夢や希望を持てる計画をどう立てるのかという視点も大事ではないかと思っています。欠けている視点があるとすれば、50人会の意見概要の13ページ、129番です。子どもたちに視点を当てると同時に、子どもたちの意見を聞くこと、北海道、東北では盛んなようで、50人会に19歳以下が1人入っておりますけれども、これからは大人が子どもの意見も聞く必要があるのではないかと思います。北海道や山形、金山などでも、高校生、中学生の街づくりのシンポジウムが計画されています。

企画調整課長（阿部雅治） これから次の段階で構想を作っていく際に、アンケートを取ることになっていきますので、その中で、子どもの意見についても考えていきたいと思っています。福祉など様々な形で機会をとらえ、子どもの意見を集約していきたいと思っています。できるだけ将来を担う子どもたちの意見も取り上げていきたいと思っています。

会長（佐藤吉雄） 現状と課題については、あまり意見がありませんので、重点項目に入っ

ていきたいと思います。説明をお願いします。

企画調整課長（阿部雅治） その前に、「現状と課題」についてですが、今回の全ての部会が終わった時点で一旦閉め、部会の意見や各課から出た字句の訂正を加え、10月いっぱいくらいで整理をし、皆様に改めて送付させていただきます。それでは、民生部会の重点項目について説明させていただきます。テーマ案は少し大きなテーマで括って、備考に集中的に議論する中身を載せております。テーマについては、新市建設計画より引用しております。合併時に作った新市建設計画は、新しい総合計画を作るときに、その代用として尊重することになっております。テーマは「子どもを産み育てやすい環境づくり」「健康で元気に暮らせるまちづくり」にさせていただきます。備考は、いろいろな意見をいただいて、1つは「少子高齢化」が大きな課題として論議が必要ではないかと思います。この項目については、これまでも子育て支援行動計画などである程度やってきました。これらについては今までの施策を拡充していくのか、新しくやることがあるのか、関係課で議論していくこととなります。「健康づくり・介護予防」は、若い時から健康づくりに取り組んで、元気な高齢者が住む地域を作りたいということで、若い人から高齢者までの健康づくり・介護予防にさせていただきます。「医療・保健・福祉（介護）のネットワークの強化」では、北庄内の医療制度のあり方についてなど、いろいろと問われていますが、まずは健康管理から、医療の充実、介護への連携、北庄内全体をにらんだ連携づくりのシステムが必要ではないかと提案させていただきました。それから「環境対策の推進」は、今の時代を反映したような課題でありまして、自然環境や生活環境について内容を詰めていきたいと思います。建設部会に生活環境対策とありますが、これはハード面での雨水排水対策が遅れているということです。民生部会では、それらを含めた、或いはそれ以外の部分についてもいろいろ提案をさせていただき、詰めていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

会長（佐藤吉雄） 重点項目について説明がありましたが、いかがでしょうか。テーマの中で、今の児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉を考える時、一番は不安感という問題を払拭することだと思います。これまでは、お年寄りが長生きすることで喜んでいましたが、最近では不安の方が大きくなりつつあります。このままいくと敬老会どころではないという社会現象が生まれてくるのではないのでしょうか。不安の払拭には何が必要なのでしょうか。必ずしも介護予防や健康維持だけでなく、心の健康について市民に投げかけていきたいし、民生部会ではそういったテーマもあって良いと思います。総務部会のテーマに安心とあり、そこに入っているのであれば良いのですが、その辺はどのように考えればよいでしょうか。

企画調整課長（阿部雅治） 重点項目の健康づくりの中に、心の健康も含まれているものと認識しています。総務部会の安心は防災の意味合いですので、もしテーマの中に安心を入れた方が良ければ検討したいと思います。

会長（佐藤吉雄） あらゆる階層が、世の中に不安を感じています。高齢者は高齢者で感じているし、療養型病床に入っている人は、本人は分からないかもしれないが、それを取り巻く人は大変不安を感じていて、それは病院問題のところでは検討すれば良いことかもしれませんが、さまざまな不安を解消するというのも、テーマとしてあっても良いのではないかと感じています。検討していく過程で、良い文言があれば入れていただければと思います。

企画調整課長（阿部雅治） 事務局で検討させていただきます。

会長（佐藤吉雄） 環境対策にごみ処理問題も入っており、有料化問題も議論されたようです。必ずしもごみの有料化がごみの減量につながるわけではないかもしれませんが、人間が生きていくために一番近道にあるのがごみ処理問題だとすると、これから財源の厳しくなる中、もう少し有料化問題に踏み込んで、環境対策が打てるような環境整備を考える必要があるのではないかと思います。ごみの有料化問題も一つの選択肢だということも入れておいた方が良いのではないのでしょうか。檜山さん、自治会連合会の考え方として、有料化問題を検討したことはありますか。

委員（檜山實） 今年の一つの活動目標に掲げています。1年間でごみをどのくらい減らせるか、一人100gを目標とした取り組みをしています。ごみを減らしていかないと、地球環境そのものに影響をきたすと言われていています。ここ3～4年は異常気象や台風、豪雨などで、防災対策としても難しい面があるかもしれませんが、市民一人ひとりが自分の家からごみを出さない、自分で処理するくらいの気持ちがないとごみは減量していきません。自治会としては、昨年からは災害対策とごみの減量に取り組んでいます。ごみの有料化は、相当高額な代金を徴収すれば、一時期にごみを減らせるかもしれませんが、次第に元に戻っていくのではないのでしょうか。やはり市民への啓発活動を十分にやるべきだと思っています。

会長（佐藤吉雄） 多くの自治体のごみの有料化を選ぶという全国的な傾向の背景には、この施策がごみを減らす、或いは財政を健全化するための上策であるのかもしれませんが、酒田市が何もそれに近づく必要はないのですが、検討に値するものだと思います。これから10年の計画ですので、3年もしたら有料化したでは笑われる訳ですので、見通しを誤らないような表現をしておかなければいけないと思います。

委員（小松隆二） 「安心して、健康で元気に暮らせるまち」というテーマは、元気な人だ

けのようで、病気の人も安心して暮らせる保障的な言葉も入れた方が良いのではないのでしょうか。そうすると、ゆりかごから墓場までになると思います。

会長（佐藤吉雄） 他に重点項目として、是非入れたいものはありませんか。環境対策の推進とありますが、まるで大風呂敷を広げたように全部入っている感じで、重点項目としてどうかと感じています。もう少しごみの減量化や環境対策などに絞った方が良いのではないのでしょうか。

企画調整課長（阿部雅治） 環境対策の推進を10年間で全部解決できるとは思っておりません。10年、20年間かけてやっていく課題だと思っています。この膨らました表現の中より一部を絞りながらやっていくつもりですが、もう少し的を絞った表現の方が良いということであれば、変更させていただきますのでご意見をいただきたいと思います。

委員（小松隆二） その中でも酒田の売りがあれば、それを押し出していくことが必要だと思います。たとえば酒田は、鶴岡と比較して街路樹が多く、ごみが無い街にするなど、特徴を出した方が良いのではないのでしょうか。

委員（武田恵子） 子ども達が新井田川で遊んだり、クロマツ林の保全に参加したり、環境保全について学んでいますが、新井田川で遊ぼうとしても、下流では遊べない状況にあります。きれいな川であってほしいのですが、どこかに親水公園を造れないのでしょうか。我々より年上の方は川で遊んで楽しかった思い出がありますが、今の子どもはそのような経験をしていません。むしろ学校から帰ったら、危ないから川では遊ぶなと教えられています。そんな中で生きた魚を触った経験もありません。関東の利根川上流に大きな親水公園がありますが、新しく地域も広がった訳ですので、そのようなものを酒田でも造れないのでしょうか。空気もきれいで、景色も良い、海あり川あり山あり、こんなに住み良いところなのに、もう少し、そういった部分も出した方が良いと思います。職域の立場から、子どもにはいきいきとして欲しいと思います。マスコミでは、病院に産婦人科医や小児科医の不在が報じられ、出産や育児に不安を抱かざるを得ません。そんな中、子育てをする親を応援する施策をもっと明確にし、酒田では、安心して子どもを産み育てられることをアピールすることが重要だと思います。また、職場を辞めずに、休んで戻れる雇用の確保、企業の理解が必要だと思いますし、嫌われる酒田ではなく、好かれる酒田としてのアピールが必要だと思います。

観光でも同様に、海あり川あり山あり。鳥海山があって、飛島があって、海水浴場があり、港があり、採れたてのおいしい魚が食べられる、山の幸が食べられる、そういったところをアピールして、観光客から来てもらえるような街づくりをしていく必要があると思います。

酒田はアピールが下手だと言われておりますので、もっと積極的に取り組んだほうが良いと思います。

委員（池田幸雄） 八幡では、8月14日に荒瀬川で魚のつかみ捕りをしたり、家族旅行村で岩魚のつかみ捕りをしたりと、あまりお金をかけないでやっていますが、子どもたちより好評を得ています。こういったことも是非観光のPRに入れてください。

委員（齋藤義明） 民生部会としてのテーマ案の「子どもを産み育てやすい環境づくり」の文言を別に考えられないでしょうか。子どもを産むことは、男性には無理な訳ですので「お母さんもっと頑張れや、夫婦で頑張れや」のようなイメージにとれる気がします。少子化対策の趣旨として、もう少し考えていただければありがたいと思います。また、私自身もそうなのですが、対策として市民の目に具体的に見えてこない部分があるように思われます。これまでの子育て支援もいろいろな事例があるのかもしれませんが、行政サイドでこれだけ門を広げていることが、なかなか見えないように感じます。宣伝不足なのか、受け手側の勉強不足なのかは分かりませんが、これから10年、何が不足で、不安はどこから生まれるのかを考え、整理していかないと、いくら文章にしてもどうしようもないと感じています。一番ストレートに分かるのは、経済支援だと思いますが、人的支援はこうだと明確にしていかないと、今の若い世代はもちろん、高齢者にとっても不安は解消しないと思います。

会長（佐藤吉雄） ご意見は、事務局で検討してもらいたいと思います。

委員（檜山寛） 小牧川は、県内でも汚い川として有名ですが、ほたるの住める川にするために、県でも予算を取っています。新井田川もまた酒田の川ですが、階段がついていないところもあり、水辺に下りていけず、子どもも遊べない状況です。農薬も少なくなり、下水道もほぼ整備されてきたので、底ざらいをしてきれいにして欲しいと思います。今、屋形船をやっていますが、少し雨が降るだけでもできなくなる状況です。これが日本海の方まで回遊ができるようになれば、観光にもかなり影響があると思います。新井田川の対策を盛り込んでもらえれば環境対策にもなるのではないのでしょうか。

市民生活部長（池田辰雄） 新井田川は汚いと言われていますが、数字的にみると、きれいにはなっています。BODといわれる数値をみのり橋のところで計測したところ、昭和52年で5.1だったのが、平成11年には3.1まで下がり、若干ですが、きれいにはなっています。建設部にも聞いていますが、河川浄化には莫大な費用がかかるため難しいと言われております。小牧川のほたるは、東両羽公園の近くでほたるを育てようと、県でお金をだして小牧川の水をまわし、ほたるを育てていこうとする事業であります。ほたるは、

こがね町と日本海病院の間のところで自然発生しているとも聞いておりますので、徐々に環境も良くなりつつあると思いき、紹介させていただきました。

会長（佐藤吉雄） 全くかまっていないということではなく、環境基本計画を定めてやっているということで、これから環境を考えていく上で、何か重点的にやらなければならないものがあれば強調したいと考えています。何かあっても良い感じがします。

健康福祉部長（佐藤幸一） 先ほど「安心」というキーワードを強調されていましたが、このところ福祉施策の動向を見ますと、「自立」という言葉がずいぶん強調され始めています。介護保険に始まり、利用者本位の福祉ということもあって、社会保険制度の中で、保険料という一定の負担のもとにサービスを提供するという仕組みが、障害者福祉のところまで及ぼうとしています。安心と自立を促進することとは、具体的には施設から地域への移行、働きにできるための就労支援が強調されるということです。これから10年どのように動いていくかは分かりませんが、私達がイメージするものは、健康でなくてもこの地域に住んでいけば人間的に尊重されながら、安心した生活が営めることです。この素晴らしさをうたいあげて行かなければならないと思っておりますが、それを保障する施策の変化を直視しながら、皆さんと議論していく必要があります。先ほどの子育て支援については、産み育てやすいとリアルな表現ではありますが、国でも、子育て、子育て支援などの言葉を使っていますので、いろいろと考えさせていただきます。

会長（佐藤吉雄） 確かに自立体制と安心の情勢は、行政の施策により安心を生み出してきました。お金で解決してきた部分も強かったのですが、その時代は終わりました。物的不安よりも精神的な不安が大きくなってきたことが気にかかります。民生の安定を考えた時、大事なのは心の健康、或いは安心の持てる社会構造だと思います。その意味で、安心感をもてる表現としていった方が良いという意見が多くありました。それでは、他の意見も無いようですので、重点項目については、今まで出された意見を含めて、これからの原案に組み入れてもらい、事務局にお任せすることではいかがでしょうか。

委員一同 了承します。

4. その他

会長（佐藤吉雄） 皆さんから何かありませんでしょうか。なければ事務局でありますか。

企画調整課長（阿部雅治） それでは今後のスケジュールについて説明します。論議していただきました重点項目につきましては、ある程度定まりました。酒田の売りを取り入れながら、

今後はワーキンググループや関係部課長会議を開催し、詰めていきます。現況と課題についても意見をまとめ、次の段階として施策の大綱、基本構想の作成に入っていきたいと思っています。これは12月末から1月の初めくらいまでに案を作るため、次回の審議会は、1月末から2月の初めになると思いますが、それにご提案をさせていただくということで考えております。また、その時期になりましたらご案内させていただきます。

会長（佐藤吉雄） これで第三回の民生部会を終了いたします。ありがとうございました。

閉会 午後 3時15分